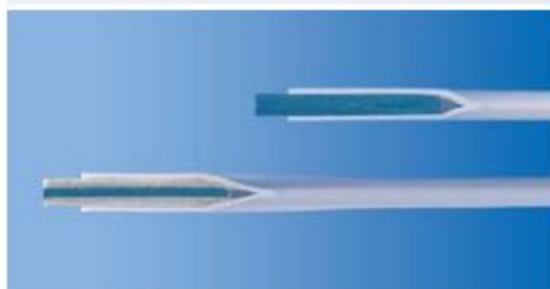


ふっ素樹脂ジャケット
ガスケット

バルフロンジャケットガスケット

バルカー No. **N7030/N7031/N7035**

ジョイントシートや膨張黒鉛シートを中芯材に用いたバルフロン (PTFE) 包みガスケットです。
中芯の構成によりNタイプ、Sタイプ、Hタイプの3種類があり、さらに3種類のジャケット形状があります。



特長

PTFE で被覆しているため、耐薬品性に優れています。
広範囲な薬液に使用可能です。

不適な流体

重合性モノマー、浸透しやすい流体など

バルフロンジャケットガスケット [中芯:Nタイプ]

バルカー No. **N7030 (N) / N7031 (N) / N7035 (N)**

中芯材にジョイントシートを用いた一般用包みガスケットです。

バルフロンジャケットガスケット [中芯:Sタイプ]

バルカー No. **N7030 (S) / N7031 (S) / N7035 (S)**

ジョイントシートの両面にフェルトシートを貼り付けた中芯を用い、PTFE ジャケットのフローを抑制した、高温・高圧用包みガスケットです。

バルフロンジャケットガスケット [中芯:Hタイプ]


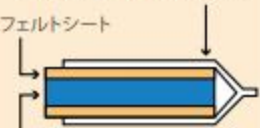
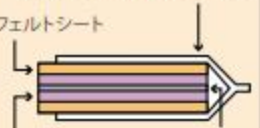
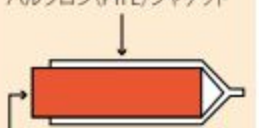
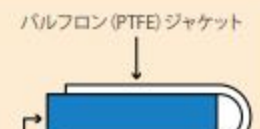
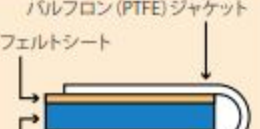

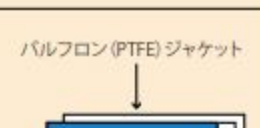
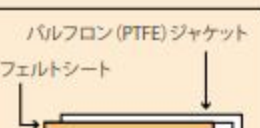
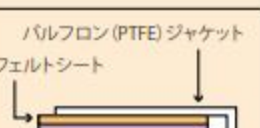
バルカー No. **N7030 (H) / N7031 (H) / N7035 (H)**

ステンレス鋼薄板入り膨張黒鉛シートの両面にフェルトシートを貼り付けた中芯を用い、より高温での使用を可能にしたガスケットです。

ハイグレードバルフロンジャケットガスケット [中芯:Fタイプ]

バルカー No. **N7030 (F) (食)**

中芯に高機能シートガスケット No.GF300 を用い PTFE 外被と熱圧着させたガスケットで、耐食性に優れます。

バルカーNo.	Nタイプ	Sタイプ	Hタイプ	Fタイプ
N7030 シリーズ	<p>バルフロン (PTFE) ジャケット</p>  <p>ノンアスジョイントシート</p>	<p>バルフロン (PTFE) ジャケット</p> <p>フェルトシート</p>  <p>ノンアスジョイントシート</p>	<p>バルフロン (PTFE) ジャケット</p> <p>フェルトシート</p>  <p>ステンレス鋼薄板</p> <p>膨張黒鉛シート</p>	<p>バルフロン (PTFE) ジャケット</p>  <p>高性能シートガスケット</p>
N7031 シリーズ ⁽¹⁾	<p>バルフロン (PTFE) ジャケット</p>  <p>ノンアスジョイントシート</p>	<p>バルフロン (PTFE) ジャケット</p> <p>フェルトシート</p>  <p>ノンアスジョイントシート</p>	<p>バルフロン (PTFE) ジャケット</p> <p>フェルトシート</p>  <p>ステンレス鋼薄板</p> <p>膨張黒鉛シート</p>	
N7035 シリーズ	<p>バルフロン (PTFE) ジャケット</p>  <p>ノンアスジョイントシート</p>	<p>バルフロン (PTFE) ジャケット</p> <p>フェルトシート</p>  <p>ノンアスジョイントシート</p>	<p>バルフロン (PTFE) ジャケット</p> <p>フェルトシート</p>  <p>ステンレス鋼薄板</p> <p>膨張黒鉛シート</p>	

注(1) No.N7031シリーズは、1箇所重ね接ぎ融着したPTFE外被を使用しています。

■ 使用可能範囲 ■

バルカーNo.	温度(°C)	圧力(MPa)
N7030(N)	-100~150 ⁽¹⁾	1.5
N7031(N)		
N7035(N)		
N7030(S)	-100~200 ⁽¹⁾	2.0
N7031(S)		
N7035(S)		
N7030(H)	-100~260	3.0
N7031(H)		
N7035(H)		
N7030(F)	-100~200	2.0

注(1) 使用温度が120℃を超える場合は均一に締め付け、配管応力がからないようにしてください。熱変動や圧力変動の頻度が多い場合や、メンテナンスが困難な場所には、ホワイトタイト(No.7590シリーズ)を推奨いたします。

備考 温度と圧力は、それぞれ個別の使用限界を表しています。

■ 製作寸法 ■

バルカーNo.	呼び厚さ(mm)	大きさ(mm)
N7030(N)	2.8 ⁽¹⁾ 、3.8 ⁽¹⁾ (1.6、1.8、2.3)	1000
N7031(N)		300~3000
N7035(N)		1000
N7030(S)	2.9 ⁽²⁾ 、3.2 ⁽²⁾ (3.8、5.4)	1000
N7031(S)		300~3000
N7035(S)		1000
N7030(H) ⁽⁴⁾	4.0、4.5 ⁽³⁾ (5.6)	950
N7031(H) ⁽⁴⁾		300~3000
N7035(H) ⁽⁴⁾		950
N7030(F)	2.4	一般配管 300A ⁽¹⁾ ライニング配管 100A ⁽¹⁾

注(1) 標準厚さは600A以下2.8mm、650A以上3.8mmです。

(2) 標準厚さは40A以下2.9mm、50A以上3.2mmです。

(3) No.N7031(H)の大きさ950mmを超えるものは、標準厚さが4.5mmになります。また、特殊加工となりますので、別途お問い合わせください。

(4) Hタイプは膨張黒鉛シートを使用しておりますので、発送時の折り曲げができません。

(5) 製作可能寸法は弊社規格寸法のみとなります。

■ 設計基準 ■

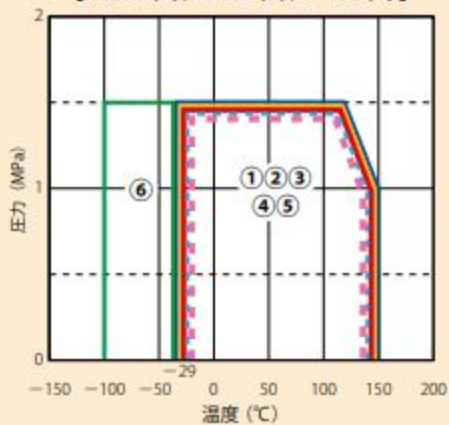
バルカーNo.	ガスケット係数“m”	最小設計締付圧力“y”(N/mm ²)	推奨締付面圧 ⁽¹⁾ (MPa)	
			液体	ガス
N7030シリーズ	3.5	14.7	15.0	20.0
N7031シリーズ	4.0	19.6	20.0	24.5
N7035シリーズ	3.5	14.7	15.0	20.0

注(1) 推奨締付面圧は流体圧力は考慮せず、一般的な条件で必要な締付面圧であり、ガスケットの接触面積についての面圧です。

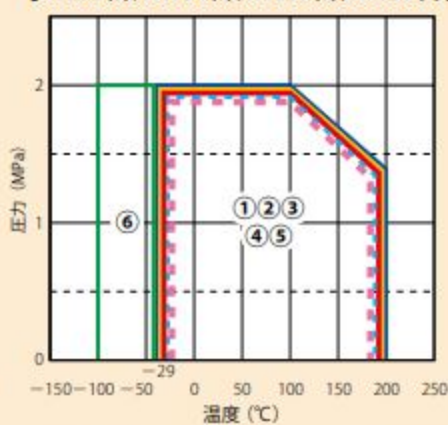
備考 m、y 値は、JIS B 2206に定める、ふっ素樹脂製ガスケットと同じです。

■ 流体別使用可能範囲 ■

【N7030 (N)/N7031 (N)/N7035 (N)】

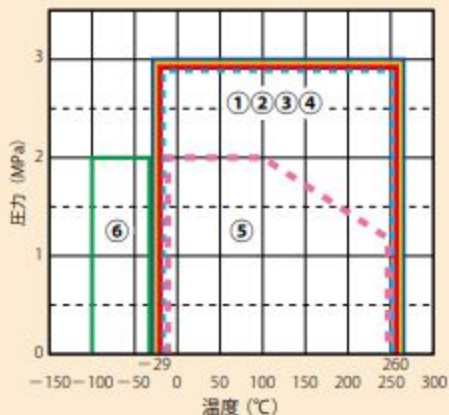


【N7030 (S)/N7031 (S)/N7035 (S)/N7030 (F)】

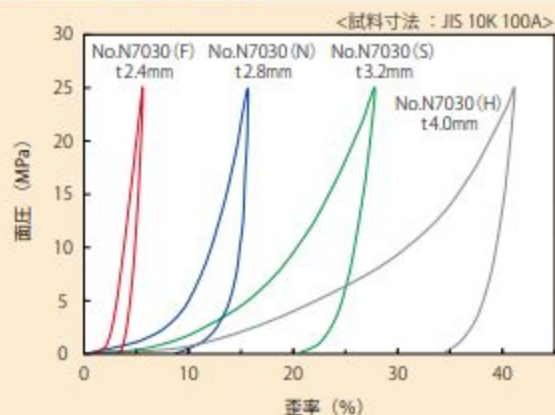


- ① 水系流体
- ② 油系流体
- ③ 溶剤・腐食性流体
- ④ 空気、窒素、不活性ガスなど
- ⑤ 可燃性ガス、毒性ガスなど
- ⑥ 低温流体

【N7030 (H)/N7031 (H)/N7035 (H)】



■ 圧縮復元特性 (No. N7030) ■



■ 設計および使用時の注意事項 ■

▼ 設計時に注意すべき事項

- ・ガスケットに十分な締付面圧が与えられるだけのボルト本数とボルト太さ、ならびにガスケット寸法を決定し、均一な締付面圧の分布になるような構造としてください。
- ・内圧負荷時にフランジがローテーションの起こりにくい構造と材料、寸法としてください。
- ・継手部に無理な熱応力や配管応力のかかる設計は避けてください。
- ・フランジ部にドレンやスケールなどのたまるような配管設計にしてください。
- ・継手部に振動が伝わらないように配慮してください。
- ・弾力性のある中芯材を使用することでパルフロム（PTFE）のコールドフローを改善していますが、長時間の使用や熱サイクルがあるとボルトが緩むことがあります。定期的にボルトの緩みが無いか確認し、適正な締付力が負荷できる箇所に使用してください。
- ・バルカー No.N7035シリーズは内径の断面が角形になっていますのでフランジの内径寸法を合わせれば、液だまりの防止に有効です。フランジの内径寸法に合わせてガスケット寸法を設定することができますので、ご相談ください。

- ・樹脂、ガラス、および硬質ゴムライニングフランジはJISなどの規格フランジでも、内径やガスケット接面外径寸法が規格と異なります。各フランジ寸法に合ったガスケット寸法を設定する必要がありますので、ご相談ください。また、ジョイントシートなどの中芯材に波形金属板を併用した製品もありますので、ご相談ください。

▼ 保管時に注意すべき事項

- ・直射日光を避け、冷暗所に保管してください。
- ・保管箇所は高温や多湿、腐食性環境を避け、ほこりのない清潔な場所を選定してください。
- ・ガスケットを釘などに引っ掛けて吊ると、破損、永久変形の原因となるため、なるべく缶に入れるかポリエチレン袋に包んで紙箱にしまってください。
- ・大寸法のガスケットは丸めずに大きめの平板にはさみ水平においてください。
- ・フェルトシートは液に濡れると圧縮破壊強度が低下します。ポリエチレン袋などに入れて保管し、濡れた状態で締め付けないでください。

▼ 装着に先立ち注意すべき事項

- ・フランジと配管との直角度を高めておいてください。
- ・相対するフランジの軸差を是正しておいてください。
- ・フランジの変形の有無を調べておいてください。
- ・既設装置や配管の継手部でガスケットのみを交換するときは接合面をきれいに掃除し、傷の有無を調べ、もしあれば補修しておいてください。
- ・フランジ面の錆を落とし、凹部を補修しておいてください。
- ・装着までの保管時や装着作業時にガスケットを傷めないように注意してください。

▼ 装着時に注意すべき事項

- ・ガスケットとフランジの間に異物をかみこまないよう、清潔な作業現場で装着を行ってください。
- ・ガスケットペーストを使用する場合には「ニューパルフロムペースト」を使用し、塗布量はできるだけ薄く、均一に塗布してください。また塗布後はゴミなどが付着しやすいので特に取扱いに注意してください。
- ・フランジボルトは、それぞれ4～5回に分けて徐々に強く締めつけていき、最後に全体が均等になるように締め付けてください。
- ・パルフロム（PTFE）外被が滑りやすいため、締付時に過大な締付力で締め付けたり、片締めがあると、圧縮破壊を生じることがあります。特に小口径ほどその傾向が大きいためガスケット面圧は49.0MPaを超えないように注意して締め付けてください。
- ・ガスケットの交換時にフランジ間の間隔がせまいと、平面座の外径部分やフランジの内径部分にパルフロム（PTFE）外被がぶつかり、めくれ上がったまま締め付けられ、漏洩の原因になることがあります。めくれ防止品として、パルフロム（PTFE）外被材の外径部を融着や縫合、もしくは外被材を熱圧着した製品がありますのでご相談ください。
- ・ガスケットの締付後、中芯材に含まれていた空気が外側に出てくる場合があります。石けん水を使用して漏洩を確認する場合、濡れと間違いないので注意が必要です。しばらく放置した後に漏洩の確認をすることをお勧めいたします。
- ・締付力が不足していると、気密テスト時の石けん水や雨水が浸透してフェルトシートが軟化し、ガスケットから外へ押し出されることがあります。この場合、ガスケット面圧が低下し、濡れが生じることがあります。
- ・ロードアップまたは再スタートの場合には、ボルトの緩みがないかご確認ください。
- ・一度漏洩したガスケットをそのまま増締めしても濡れがとまらないときは新しいガスケットと交換してください。
- ・ジョイントシートが含まれるNタイプ、Sタイプの100℃以上の使用はガスケットが硬化して割れる恐れがあります。増締めを行う場合は、硬化が顕著ではない加熱運転開始後の24時間以内に実施してください。